

平成26年度 公共事業評価委員会 議事概要

日 時：平成26年10月28日(火) 10:00～12:00

場 所：徳島県庁 10F 特別大会議室

出席委員：山中会長，植田委員，久次米委員，上月委員，佐田久委員，
滑川委員，福島委員

【再評価番号6 一般国道438号宮平バイパス】

(福島委員)

宮平トンネルに着手できない状況で，住民の利便性は確保できているか。

(道路整備課)

これまで，整備効果の高い，蜂須トンネル区間から事業を進めてきたところであり，当区間の完成によって住民の利便性向上に寄与している。

宮平トンネルが完成すればより利便性は高まるが，今は，現道を利用している状況である。

(福島委員)

「代替案」はあるのか。

(道路整備課)

断面縮小や線形変更などの案は考えられるが，現在は検討していない。

(滑川委員)

進捗グラフで前回再評価時から進んでいない理由は。

また，前回の委員会の判断は。

(道路整備課)

前回再評価時には，「継続」で認めていただいたが，残土処理場及び処理場へのアクセス道路において用地交渉が難航したため，事業が進まなかった。今後については，他工区の状況も勘案しながら着手時期を検討し，着手までの間は，現道の落石対策を行いたい。

(上月委員)

環境便益で整備することで山林が潰れるというマイナスは考慮していないのか。

(道路整備課)

現在は，考慮していない。

(上月委員)

今年度は、仕方がないが、来年度からは是非検討してもらいたい。

(道路整備課)

国の動向をみて検討する。

(久次米委員)

残土処理について民間との連携はないのか。民間を活用すれば、トンネル工事が早く進むのでは。

(道路整備課)

トンネル工事の残土処理については、市町の残土処理場に搬出するのが一般的であり、民間は活用していない。

(山中会長)

大規模構造物の評価として「緊急度が比較的高い事業」ということだが、何が「緊急度が高い事業」より低いのか。

(道路整備課)

B/Cである。

(山中会長)

現時点でのB/Cはいくらか。現時点のB/Cが1.0あれば、しばらく着手しなくても投資額の回収という観点では問題ない。

(道路整備課)

未算出のため後日報告する。

【再評価番号1 徳島東環状線末広住吉工区】

(滑川委員)

前回再評価時より8年も遅れるとのことであるが、環状道路は誰が見ても重要な路線であると認識しており、優先順位を上げて早く完成させるべきではないか。

(都市計画課)

厳しい財政状況であり、予算の確保が難しいことに加え、基礎杭延長の変更により工事費が増加している。また、現道交通を確保しながらの工事となり、安全面の観点からも時間を要しているが、一刻も早く完成させる必要がある重要な路線と認識しており、早期の完成に向けて進捗を図りたいと考えている。

(滑川委員)

ほぼ全ての再評価事業が、計画より遅れており、事業の遅れについての対策は何かしているのか。

(都市計画課)

予算全体の話だが、平成7年のピークから相当減っており、事業着手時には想定できない状況となっている。その中で、限られた予算でも事業効果の早期発現を図られるよう、暫定供用や部分供用を行っている。

(滑川委員)

基金的なものをつくって、計画とおりに実施していく必要があるのでは。

(佐田久委員)

事業の内容について、市民にもっとアピールしたほうがいいのではないかと。また、側道の切替が多く道がわかりにくく、夜間はもっと明るくしたほうがいいのでは。事故は発生していないのか。

(都市計画課)

「土曜の日」に知事と行くバスツアーや高校生の現場見学会等を実施しているが、ご意見をいただいたようにもっとPRを行いたい。

側道の切替では、ご迷惑をおかけしているが、工事の関係上、どうしても必要になっている。また、側道を夜間明るくできないかのご意見については対応を検討する。

事故については、側道での発生は聞いていないが、城東町の交差点において、渋滞による追突事故等が発生しており、その対策として一刻も早く次の下りランプの供用を行いたい。

【再評価番号2 住吉万代園瀬橋線】

(滑川委員)

大規模事業の検証でⅢ類と優先度が低くなっている。万代橋はどう見ても必要な事業であり、防災面の視点のみで評価するのではなく、他の要因も含め総合的に評価すべきでは。

(都市計画課)

この事業区間については、すべて浸水範囲となり、防災面では優先度は高くないが、事業区間内でも、陸上部は狭小な道路が多く、避難路がないことや救援活動が困難なことから、防災面でも効果のある陸上部から進捗を図っている。

(山中会長)

全体としては、この事業の優先度は高くないのかもしれないが、事業単独で見たときに、B/Cが厳しい状況であり、その点についても認識する必要がある。

(上月委員)

万代橋がない場合でもB/Cが1.0を超えていればいいのではないか。

(都市計画課)

全体B/Cが1.0で、残事業B/Cが3くらいなので、万代橋がない場合のB/Cについて1.0の確保は難しい。

(上月委員)

様式の中にある感度分析は、残事業で実施しているが、全体でも実施し、事業全体の逼迫度がわかるようにできないか。

(都市計画課)

現在の方法では、残事業で行うことになっているが、全体でもできないか検討したい。

これまで本県の事業評価では、B/Cがすべて1を超えている状況ではあるが、仮に全体B/Cが1を下回っても、残事業B/Cを見て、事業を継続したほうが、効果が高いということであれば、事業継続を判断している事例が他県ではある。

【再評価番号3 南部総合運動公園】

(福島委員)

供用済み施設の便益計算では、利用者数の実績値を使用しているのか。

(都市計画課)

国土交通省マニュアルに従い、人口からの推計で利用者数を算出している。公園利用者の実績は、自由使用による利用者が多く、把握することが難しい。施設の利用状況としては、阿南市の取組みもあり、野球場をはじめ多くの方に利用いただいている。

【再評価番号4 西大堀川】

(佐田久委員)

今年度の台風による浸水被害の状況は。

(河川振興課)

8月の台風11号による浸水被害では、田畑や道路冠水などが若干出ていると聞いているが、平成16年23号台風ほどの被害はない。

(佐田久委員)

西大堀川の整備効果が出ているということか。

(河川振興課)

西大堀川は1/5確率の整備を進めており、それ以上の雨が降った場合は浸水被害が発生してしまう。しかしながら、下流から改修を進めることで浸水時間の短縮など、一定の治水効果は上がっていきと考えている。

(滑川委員)

予算ベースの進捗率は67%だが、実際の改修もそれくらい進んでいるのか。

(河川振興課)

延長ベースでは、計画延長2,300mに対し整備済み延長が1,010mであり、約50%が概成している。

東大堀川の上流への用地取得を先行して進めていることから、予算ベースの進捗と若干の差はあるが、概ね予算ベースの進捗と合っていると考えている。

(滑川委員)

工事費の増により完了年度を延伸しているが、予算を重点投資すれば完了年度が早まるのでは。

(河川振興課)

河川事業は限られた予算の中で実施しており、西大堀川以外にも重点的に改修を進めている河川があるため、これまで以上に予算配分を行うことは困難な状況である。

【事後評価番号1 横尾谷】

(福島委員)

B/Cが着手時に比べ上がっている理由は。

(砂防防災課)

平成24年のマニュアル改訂に伴い、精神的損害などの間接被害軽減効果が計上できる様になったためである。

(滑川委員)

事後評価でこの箇所を選定した理由は。

(砂防防災課)

横尾谷は、管理道を避難路として活用していることなどから、代表箇所とした。

【砂防事業全般】

(滑川委員)

全体の要対策箇所はどのくらいあるのか。また計画はあるのか。

(砂防防災課)

具体的な計画はない。県内には土砂災害危険箇所が13,001箇所あり、半数程度が交付金事業の対象で、残りは県単独費や市町村が実施することとなる。

(滑川委員)

B/Cの算定において、人口減少及び年齢は考慮するのか。

(砂防防災課)

マニュアルにおいて人口減少は考慮しない。なお、年齢は被害額の算定において考慮している。

【再評価番号8 港湾改修事業 徳島小松島港・沖洲地区】

意見無し

【再評価番号9 海岸保全施設整備事業 浅川港海岸】

意見無し

【意見集約 まとめ】

(山中会長)

附帯意見の全体意見として、投資額を回収するために、いつまでに整備する必要があるかといった時間的概念を取り入れていただきたい。

個別意見として、番号1の徳島東環状線については、短期間の事業効果を確認しながら実施していただきたい。

番号2の住吉万代園瀬橋線は、言い方を検討する。(全体B/Cやその時点のB/Cの状況を確認しながら進捗を図ること といった内容。)

番号6の宮平バイパについては、現在のB/Cが1.0を超えていれば附帯意見なしで構わないので、数値を報告下さい。

(上月委員)

次年度で構わないので、対象事業件数の推移などで、これまでの公共事業評価委員会の効果を説明して欲しい。

以 上